



Creative Application A07

美術思想史2: 美の諸説 - 表現者の追うもの

2024年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます。答えのない議論があります
- ・ 前半：本日のテーマ紹介と座学
- ・ 後半：テーマを深める談義・質問・考察
- ・ 気になることをメモをしながら受講してください

資料の見方

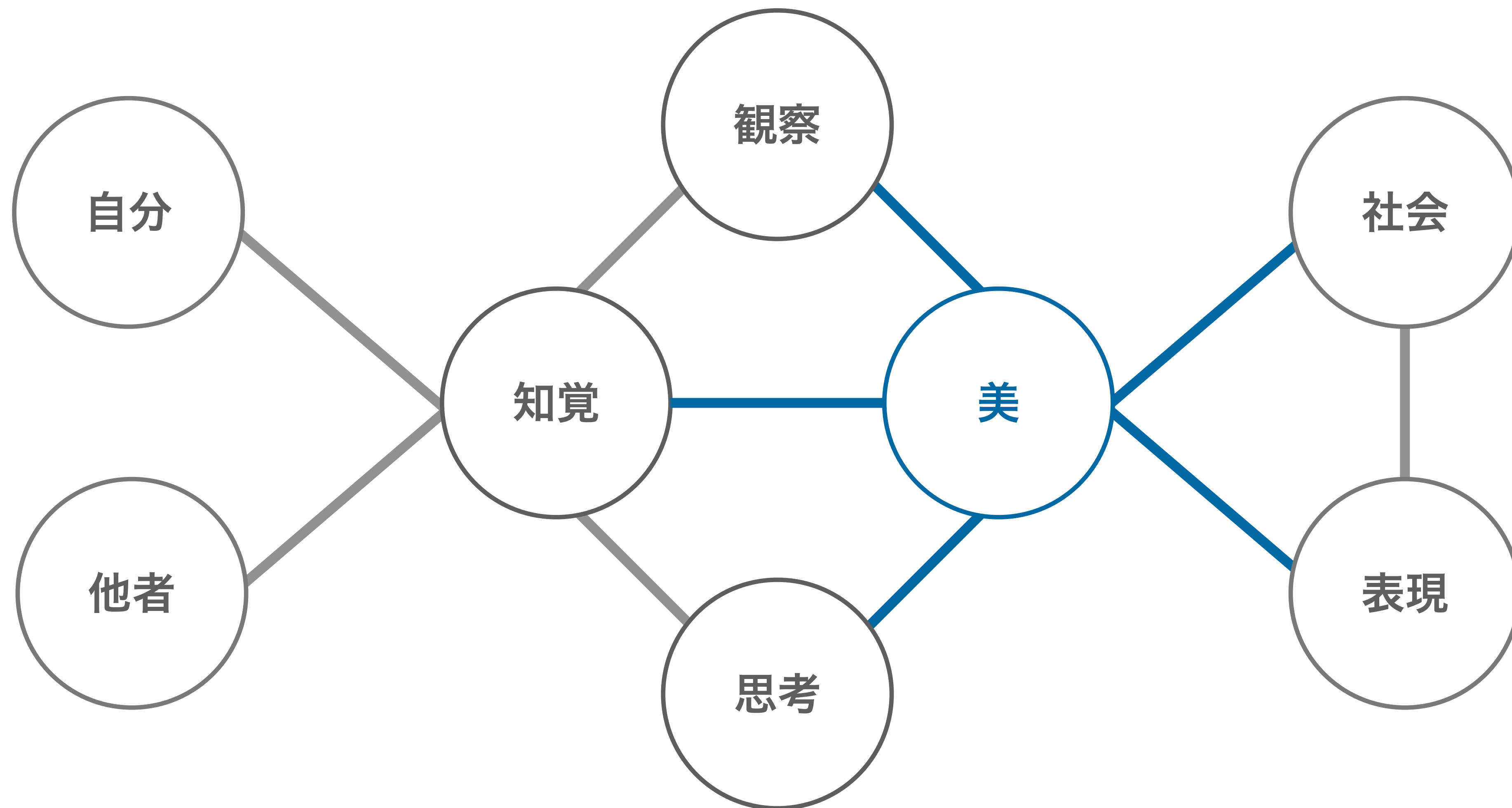
テーマに沿った項目
(座学で説明します)

左の内容に関連した
補足キーワード
(調べ物に役立ててください)

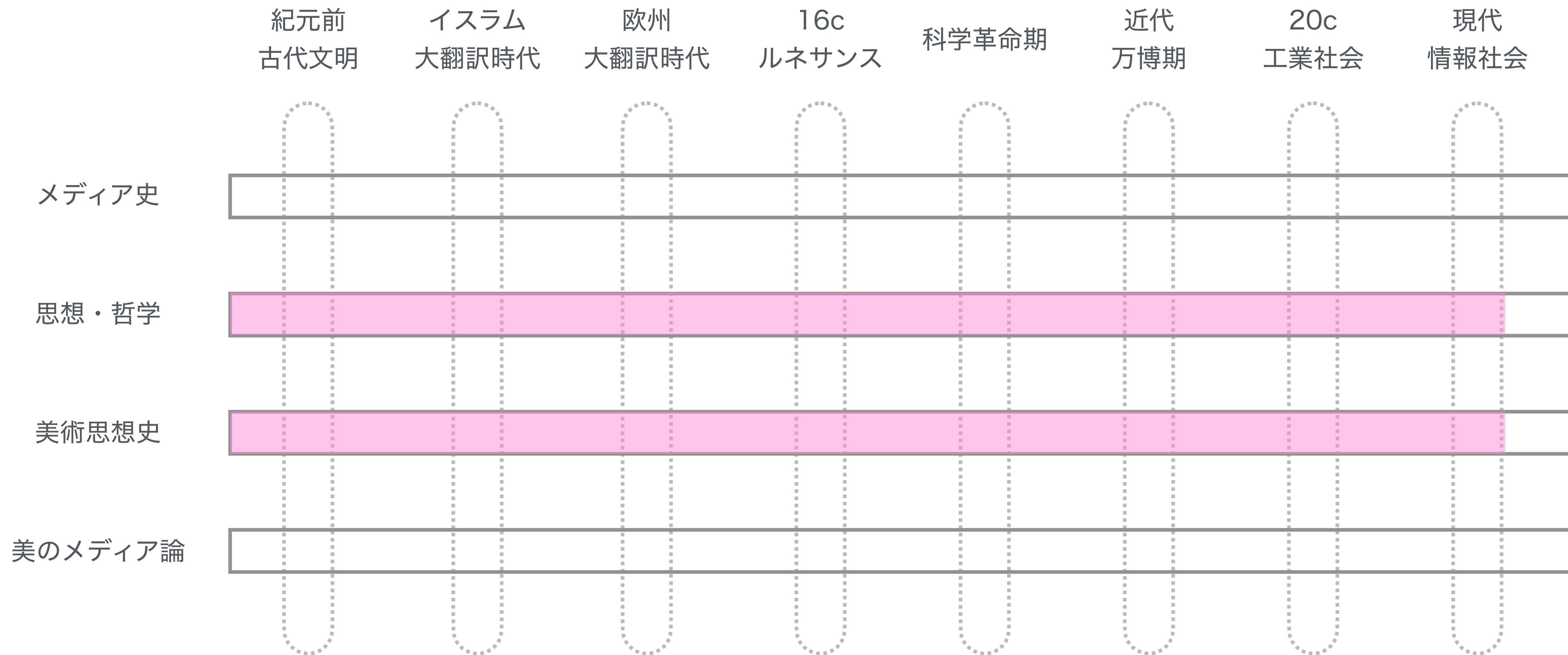
テーマ

- ▶ **美の主観性と思考, 美の普遍性と共有**

関連要素図



今回の領域



表現のメディア化と美

- ▶ **表現のメディア化の課題**
 - ▶ 主観をどう出力するとメディア化できるか
 - ▶ 自分と他者の思考をつなぐ共通点が欲しい
- ▶ 共有できる感覚として**美しさ**について検討する

美の諸説1 - 美は完全なものの一部

- ▶ **イデア論における美**
 - ▶ 完全なイデア界と、不完全な現実世界
 - ▶ 「完全」に憧れるが一切触れられない
 - ▶ **美は、現実でイデアを感じる窓口**
- ▶ ヴァザーリの**ディセーニョ**
 - ▶ 芸術家 = **美**を現実に作りだせる職人

関連キーワード

- プラトン, 中期イデア論, 想起説, 実在
- アカデミア・プラトニカ
- イタリアルネサンス, 新プラトン主義
- アルベルティ, ヴァザーリ, 「列伝」
- ディセーニョ, デッサン, デザイン
- ボッティチェリ, ダヴィンチ, ミケランジェロ, ラファエロ, ジョルジョーネ, ティツィアーノ

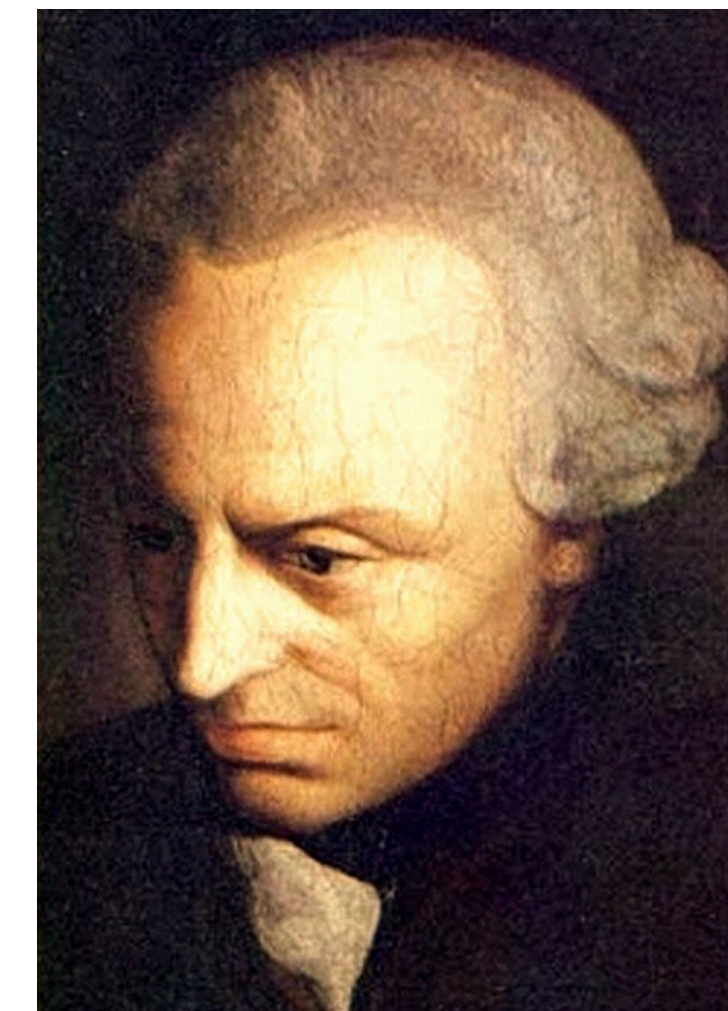


美の諸説2 - 西洋の美学・主観と普遍

- ▶ **美学の提唱・個人の思考(主観)の美**
 - ▶ **美学**：可知(知性)に対する可感(感性)の学問
 - ▶ **美**の認識は個人の快不快による
 - ▶ **美**は主観的だが，他人にも共有される
- ▶ **美の主観性と普遍性**が示される

関連キーワード

- バウムガルテン, 「美学」, 「形而上学」
- Beauty, Aesthetica
- 認知, 知覚, 認識
- カント, 「判断力批判」, ヘーゲル
- 趣味判断, 美的判断, 合目的性
- 存在論, 認識論的転回
- フッサール, 美的客観性



美の諸説3 - 日本の美意識

- ▶ **“あはれ”や幽玄にみられる美意識**
 - ▶ 言葉に表れず，心を揺り動かす
 - ▶ 物事の趣が奥深く図り知れない
 - ▶ 和歌，茶道，能，俳句，文学などに影響
- ▶ **見えない，深い，無い…に感じる心情の尊重**

関連キーワード

- 紀貫之, もののあはれ
- 幽玄, 余情(よせい)
- 正徹, 仏教思想, 禅
- 世阿弥, 「動十分心動七分身」, 余白
- 松尾芭蕉, 千利休, 侘び寂び
- 本居宣長



美の諸説4 - 美とメディアの議論

- ▶ **美**を伝えるメディアの考察・不明点
 - ▶ 普遍的な**美**はなぜ共有できているのか
 - ▶ “無い”がメディア化して**美**を感じる日本
- ▶ 東西問わず,
美を共有するメディア化が発生している

関連キーワード

- マクルーハン, 「光もメディアである」
- メディア・サイクル, メディア化
- 主客分離と主客不可分
- 西欧と東洋の文化考察
- 有無, 存在と非存在

美の主観性と思考, 美の普遍性と共有

- ▶ **美**は多様で個別であるが, なぜか共有できる
 - ▶ 「完全」への窓口としての**美**
 - ▶ **美**は個人の判断であり, 主観から逃れない
 - ▶ 一方, 無意識に共有される普遍的な**美**がある
- ▶ **メディアで共鳴する,**
主観的な美**に内在する普遍的な**美****

CreApp-Bのリンク6

- ▶ **他者に快く伝えるよう作っていく意識をもつ**
 - ▶ 自分にとって快いのは当然として, 他者にとって快いかを考える
- ▶ 快く伝わる方法論としての美しさを考慮する
- ▶ 同じ内容も意図に沿って複数の伝え方を挙げてみる

本日の議論・考察一助

- a. 各自の美の共通の普遍性はどのように獲得されるのだろうか
- b. 社会実装において、美はどのような役割を果たしているだろうか
- c. メディア化に美的観点を踏まえる時考えるべき課題を挙げてほしい
- d. 上記に限らず、自由に質問・問題提起・雑談をしてほしい

次回予定

- ▶ **思想と哲学1：ゼロという概念**

参考文献

1. 伊東 俊太郎, 「十二世紀ルネサンス」, 講談社学術文庫, 2006
2. 高階 秀爾, 「ルネッサンスの光と闇」, 中公文庫, 1987
3. バウムガルテン著, 松尾大訳, 「美学」, 講談社, 2016
4. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
5. 竹田 青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
6. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
7. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
8. 東 浩紀, 「動物化するポストモダン」, 講談社現代新書, 2001